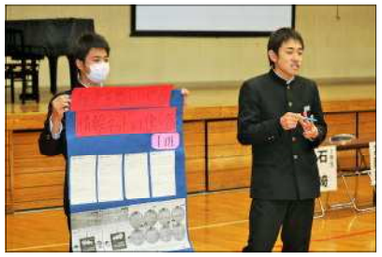
赤塚中学校だより　「赤中プライド」
平成２８年１１月１６日
HPアクセス数　１５４３４０
「時間を守る」「話をきちんと聴く」「清掃にしっかりと取り組む」
No.３０

11/11(金)に「いじめ解決フォーラム」を開催しました。

１１日（金）の午後は，「いじめ解決フォーラム」を開催しました。今年のフォーラムには学区内の三つの小学校からの代表児童10名ずつにも参加していただき，小中一貫の取組としても実施しました。

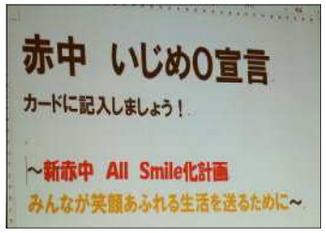
この日は，前半に各学級の発表を位置づけ，一班を約25名として，小学生と中学生の1～3年が入った班を16班編成して行いました。各班では，それぞれの学級ではなしあったことを発表し合い，意見交換を行いました。各班の小学校の児童も堂々と発表していました。

真剣な表情

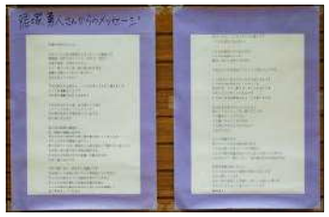


後半は，例年に続いてのシンポジウムを行いました。パネラーとして，各学年から２名ずつの中学生，地域の方より２名，保護者から２名，そして今年は茨城ロボッツのバスケットボール選手２名に参加していただきました。司会の問いかけに，パネラの皆さんが積極的に意見を述べ，たくさんの考えを知ることができました。会場で聞いている生徒の中からも意見が出され，約40分のシンポジウムもアッという間に終わった感じでした。

茨城ロボッツの選手の二人



「ゼロ宣言」


腰塚先生のメッセージ

最後には，全員で「赤中いじめ０（ゼロ）宣言カード」に自分の考えや思いを記入しました。

また，この日のフォーラムのために，「命の授業」で講演していただいた腰塚勇人先生からもメッセージをいただきました。開会前に読み上げさせていただきました。

児童生徒の真剣な表情が，会場全体を包み込んでいました。参観されていた保護者の方も真剣な表情で眺めていたことがとても印象的でした。

県内いじめ7094件 過去最多
規範意識低下の可能性も

県内の小中高校、特別支援学校が2015年度に認知したいじめの件数が過去最多となったことが、文部科学省の調査で分かった。県教育委員会では、子どもたちが顔を合わせて遊ぶ機会が減った結果、「規範意識やコミュニケーション能力が低下し、いじめが増えた可能性もある」と分析。いじめ解消率の向上に向け、対策の強化を進める。

「相手の気持ちを考え、個性を認めることがいじめの解消につながる」。水戸市立赤塚中で1日にあったいじめ解決フォーラムで、生徒らはいじめが減らない理由や対策を考えたことを発表した。住谷吉校長は「子どもの時から繰り返し考えることで、いじめに気づき、みんなで乗り越える力がつく」と話す。

15年度のいじめの認知件数は、前年度から2375件増え7094件だった。いじめられた生徒を学年別にみると、中学1年が1028件と最多で、小学2年、同3年と続く。いじめの内容は、悪口など言葉によるものが4290件で過半数を占め、暴力、仲間はずれや無視が続いた。

一方で、いじめの解消率は前年度比で2・1%高い92・7%となり、全国平均を上回った。小野寺俊教育長は「各学校がより慎重にいじめの把握に努めた結果、認知件数の増加につながった可能性がある半面、深刻になる前に多くのいじめを解消できた」と話す。

県教委はいじめの増加を食い止めようと、今年度から小中学校を対象に派遣してきた「スクールソーシャルワーカー」を県立高校にも派遣。社会福祉士や精神保健福祉士ら有資格者がアドバイスをするほか、児童相談所や医療機関との連絡・調整もする。公立学校いじめ相談に応じるカウンセラーの派遣も増やす。（鎖谷真司）

いじめについて考えたことを発表する生徒たち＝水戸市立赤塚中

2016年11月15日の「朝日新聞」より